佐世保工業高等専門学校

令和７年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル） 自己点検評価

会議名称：自己点検・評価委員会

点検項目	内部評価	評価理由
プログラムの周知・広報	A	教育プログラムの情報をホームページで公開しており、本プログラムの目的や位置づけについて、学内や学外へ十分説明を行っている。
プログラムの履修状況	A	2025年度の本プログラムの履修率は100%である。
（１）授業に含まれる内容・要素： データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎（統計数理、線形代数、微分積分）」に加え、ＡＩを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	A	数学基礎、アルゴリズム、データ表現、プログラミング基礎の概念や知識に関する学習項目を学び、数理・データサイエンス・AIを応用するための基礎と知識を修得している。
（２）授業に含まれる内容・要素： ＡＩの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にＡＩを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するＡＩ基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	A	AIやデータサイエンスに関する要素技術や応用事例について理解し、課題解決に向けた運用までの一連の流れを知識として修得している。データ駆動社会やデータ活用のためのICT基盤について理解し、機械・深層学習の基礎と展望に関する学習項目を履修している。
（３）授業に含まれる内容・要素： 育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・ＡＩ活用 企画・実施・評価」から構成される。	A	人や社会に関わる課題解決に向けた理解や認識向上に向けて、必要となる要素技術の理解の深化およびデータ・AI活用に関する一連の流れを、実際にデータを用いて実施し、実践の場を通じて体験的に学習している。
プログラム学修成果（履修者に対する修得率）	B	旧カリキュラムと新カリキュラムの接続に関連した留年生の影響により、プログラム修得率は100%に届かなかった。プログラムは必修科目のみで構成しており、今後は100％の修得率が見込まれる。

A：十分満足している

B：満足している

C：改善を要する